

登録コード:MH326300 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目 必修
科目名	臨床基礎実習【20M以降】 Clinical Practice in Hospital (Evaluation)		
担当教員	小宅 一彰 百瀬 公人		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	理学療法学専攻/3年 後期(集中) 集中・不定期		
単位数、講義室	3単位	遠隔授業科目	
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素	⇔	授業の達成目標
	MH20カリ・保健		
	生命を尊び、人間についての幅広い知識を身に付け、対象を全人的に理解して、人々の健康を支援することができる。	⇔	学内で学修した基礎的な理学療法評価の知識や技術を、実際の患者に適切に実施できるようになる。
	保健・医療・福祉の現場において、専門職者として自己の責任を自覚し、チームの一員として協働活動に参加できる。	⇔	理学療法評価を実臨床で実施させて頂くことで、学内で勉強した知識や技術のさらなる向上を図る。
	MH25カリ・保健・理学, MH23カリ・保健・理学		
	《基礎的・専門的な知識と技能》保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。	⇔	理学療法士に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を習得し、臨床実習の様々な状況で活用できる。
	《科学的探求力》変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	⇔	変化し続ける社会で派生する医療・介護・福祉の課題に対して、理学療法の視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。
	《問題解決力》保健・医療・福祉の場で生じる多様な情報を、科学的・多角的に収集・評価・分析し、最新情報と科学的根拠に基づいて判断を行うとともに関係者に伝えることができる。	⇔	理学療法の臨床現場で生じる多様な情報を、科学的・多角的に収集・評価・分析し、最新情報と科学的根拠に基づいて判断を行うとともに患者・家族・関連職種へ伝えることができる。
	《対人関係形成・協働力》保健・医療・福祉の現場における対象者やその家族、チーム関係者とコミュニケーションをとりながら適切な関係を形成し、保健・医療専門職者として協働的に役割を担うことができる。	⇔	理学療法の臨床現場における対象者やその家族、チーム関係者とコミュニケーションをとりながら適切な関係を形成し、保健・医療専門職者として協働的に役割を担うことができる。
	《プロフェッショナリズム》保健・医療専門職者として生命を尊ぶ倫理観と責務・行動規範を身に付け、人々の健康と社会の発展に向けて省察的・自律的に行動することができる。	⇔	理学療法士として生命を尊ぶ倫理観と責務・行動規範を身に付け、人々の健康と社会の発展に向けて省察的・自律的に行動することができる。
授業で学べる「テーマ」	健康長寿		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	総合病院やリハビリテーション施設などで実習指導責任者の指導を得ながら個別に評価を3週間行う。本授業は、3年次後期までに学んだ各種疾患別理学療法ならびに臨床能力演習の発展科目に位置付けられる。また、4年次前期の「臨床実習Ⅰ」の前提科目である。臨床実習の違法性が阻却される条件を満たすために、3年次で履修する全必修科目を単位取得見込みであることが、本授業を受講するための必須要件とする。臨床実習指導責任者としては、臨床経験豊富な各施設の理学療法士が学生の実習を担当し実施する。		
授業計画	2027年1月7日 オリエンテーション (13:00～131) 2027年2月8日～2月26日 臨床実習 2027年3月1日 全体報告会、授業アンケートの実施 2026年12月4日 臨床実習指導者会議 ＊変更のある場合はその都度周知する		
授業の進め方	実習は、信州大学医学部附属病院リハビリテーション部および複数の学外施設で行われ、1施設あたり1～2名の学生を配置する。 経験豊富な理学療法士の指導の下、対象者の検査・測定・評価を行う。 実習ポートフォリオを作成する。 実習終了後、全体での反省・報告会を通し、学習の定着を図る。		
テキスト、教材、参考書	これまで使用した教科書や配布された資料 参考書 里字明元 編：自信がもてる！リハビリテーション臨床実習（医歯薬出版）		
成績評価の方法	チェックリスト、ルーブリック、ポートフォリオ、全体報告会を総括的に評価します。 総括的評価の配分は、チェックリスト30%、ルーブリック30%、ポートフォリオ30%、全体報告会10%とし、総得点の60%以上を合格とします。		
成績評価の基準	評価は、チェックリスト、ルーブリック、ポートフォリオ、全体報告会の内容に基づいて下記の基準で行います。 秀：課題に対する具体的な対応を十分に行うことができる。 優：課題に対する具体的な対応を概ね行うことができる。 良：課題に対する具体的な対応を基本的なレベルで行うことができる。 可：課題に対する具体的な対応を最低限のレベルで行うことができる。		
事前事後学習の内容	【事前学習について】		

事前事後学習の内容	実習開始前に臨床基礎実習についてのオリエンテーションを行います。 【事後学習について】 臨床基礎実習指導報告書、提出記録、報告等の内容に関して質問を行うので、実習内容を整理し、要点を分かりやすく説明できるようにして報告会に臨んで下さい。 4月の臨床実習Ⅰ（4年次）に向け、臨床基礎実習で明らかになった課題の整理、臨床実習Ⅰにおける目標設定と事前準備を行って下さい。
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	臨床基礎実習では解剖学、生理学などの基礎医学から整形外科学などの臨床医学、理学療法の専門科目（理学療法評価学など）の知識と技術が必要になります。特に実際に行えることが要求されます。さらに、臨床現場では患者、病院職員など多くの人とのコミュニケーションが必要になる総合的な科目です。実習前に知識や技術を十分復習しておくことが大切です。協力していただける患者と指導者への誠意と、明るく実習へ積極的に取り組む姿を見せてください。 質問への対応：小宅 一彰 k_oyake@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：随時（要事前連絡） 保健学科南校舎4階 小宅研究室